

事後評価書

事業名	滝川生活貯水池建設事業		事業区分	ダム事業	室名	河川室												
事業概要	工期 (下段当初)	平成2年～平成12年	全体事業費 (下段当初)	7,030 百万円 (負担率: 国49.4 : 県49.4 : 市1.2)														
		平成2年～平成10年		5,000 百万円 (負担率: 国49.4 : 県49.4 : 市1.2)														
事業目的及び内容	<p>比自岐川は未改修区間が多く流下能力が不足しているため、過去に浸水被害が発生しています。また、比自岐、摺見、高山、岡波地区では、生活用水を井戸水や谷川の水に依存しており、頻繁に発生する水不足が深刻な問題となっていました。このため、地域の小河川における局地的な治水、利水対策を目的とした『生活貯水池建設事業』により滝川ダムの建設に着手しました。事業内容については下記のとおりです。</p> <p>【事業内容】</p> <p>重力式コンクリートダム (堤高29.8m 堤長120.0m 堤体積30,000m³ 総貯水量282,000m³)</p>																	
1・事業の効果	<p>1-1. 事業の効果</p> <p>【洪水調節の効果】</p> <p>滝川ダム建設後に発生した洪水のうち、最も規模の大きかった平成16年8月洪水では、滝川ダム地点で毎秒3.0立方メートルの洪水調節を行いました。これにより治水上の基準点である合楽橋地点において最高水位が7cm低下する効果がありました。なお、滝川ダムの完成後は大きな降雨は発生していないため、計画規模における効果まで至っていません。</p> <p>【流水の正常な機能の維持の効果】</p> <p>河川環境保全のための維持放流を行い、比自岐川の河川水を補給しました。この維持放流は農業取水の安定にも効果があります。なお、維持放流により滝川ダム建設後5年間では45日、渇水による河川環境の悪化を軽減することができました。</p> <p>【水道用水供給の効果】</p> <p>滝川ダムから水道用水として1日あたり500立方メートルの水を伊賀市に供給することにより、水道が未整備であった高山、比自岐、摺見、岡波地区に水道が整備されました。これにより、生活用水の供給が安定するとともに、消火栓や、水洗トイレ、集落排水施設の整備が進み、衛生面、防災面においても生活環境改善の効果がありました。</p> <table border="0"> <tr> <td>事業の効果…水道普及率</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>集落排水普及率</td> <td>0%</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>トイレの水洗化</td> <td>0%</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>消火栓数</td> <td>0個</td> <td>88個</td> </tr> </table> <p>1-2. 事業効果の評価</p> <p>【B/C】</p> <p>費用対効果を分析した結果、B/Cは1.62となりました。</p> <p>総便益：13,817.8百万円 総費用：8,548.0百万円</p> <p>$13,817.8 / 8,548.0 = 1.62$</p>						事業の効果…水道普及率	0%	100%	集落排水普及率	0%	97%	トイレの水洗化	0%	97%	消火栓数	0個	88個
事業の効果…水道普及率	0%	100%																
集落排水普及率	0%	97%																
トイレの水洗化	0%	97%																
消火栓数	0個	88個																
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	<p>2-1. 事業の環境面への配慮</p> <p>ダム貯水池低層の冷濁水を放流すると、下流に生息する生物や、稲作へ悪影響を及ぼす恐れがあることから、水温や濁度を考慮した放流ができるよう選択取水設備を設置し、環境の保全に配慮しました。現在のところ冷濁水によるとみられる被害は報告されていません。</p> <p>また、ダム建設工事の際には、浮遊物質の分離やPH中和のための濁水処理施設を設置し、下流の環境に悪影響を及ぼさないように配慮しました。</p>																	

2 - 2 . 事業による環境の変化

比自岐川^{ひしぎ}における水質調査の結果によると、ダム建設の前後において、水質に大きな変動はみられませんでした。また、魚類の捕獲調査を行ったところ、生息する魚類相に大きな変化はみられませんでした。

滝川ダムの建設により、滝川流域の田畑が湛水^{たんすい}区域となりましたが、ダム周辺の改変は最小限に留めることができました。

3 ・ 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 比自岐川流域では開発等は行われておらず、滝川ダム建設前後で土地利用の変化はほとんどみられません。
- ・ 滝川ダムの建設により水道施設が整備されたことにより、水供給が安定し、消火栓や、水洗トイレ、集落排水施設の整備が進み、地域の生活環境が改善されました。

4 ・ 県民の意見

滝川ダム周辺の住民を対象に滝川ダムに関するアンケート調査を実施しました。

- ・ 実施時期：平成17年8月
- ・ 回答率：165世帯 / 237世帯 = 約70%

4 - 1 . 滝川ダムの各効果に関する満足度

洪水被害 改善された(40.6%)やや改善された(22.4%)と、洪水被害が改善されたという回答が63.0%に達しました。反対に悪化したという意見は0.0%でした。

洪水の不安 改善された(43.6%)やや改善された(29.7%)と、洪水の不安が改善されたという回答が73.3%に達しました。反対に悪化したという意見は0.0%でした。

生活用水の不足 改善された(69.7%)やや改善された(19.4%)と、水道が整備されたことにより、生活用水の不足が改善されたという回答が89.1%に達しました。反対に悪化したという意見は0.6%でした。

河川水の不足 改善された(33.3%)やや改善された(33.9%)と、ダムの維持放流^{いしほうりゅう}により河川の水枯れが改善されたという回答が67.2%に達しました。反対に悪化したという意見は4.8%でした。

4 - 2 . 滝川ダムに関する認識

滝川ダムの役割については、全て知っていた(54.5%)、一部知っていた(33.9%)と、ダムについての知識を持っている方は88.4%に達しています。反対に全く知らなかった方は4.2%でした。

滝川ダムの重要性については、非常に重要(75.2%)やや重要(15.2%)と、滝川ダムを重要と考えている方は90.4%に達しています。反対に重要でないと考えている方は0.6%でした。

4 - 3 . 滝川ダムに関する意見

滝川ダムに関する意見を聞いたところ、不満・改善を要する点として以下のような意見がありました。ダムの建設により生活環境が改善されたという意見が大部分を占めていました。

- ・ ダムの周辺の林道に廃棄物を捨てにくるようになった。
- ・ ダム周辺をもう少し掃除して欲しい。
- ・ 渇水時は生活用水が重要なため、農業用に放流できない。

5 ・ 今後の課題等

5 - 1 . 課題等

周辺道路の整備により滝川ダムへのアクセスが容易になり、ダム周辺を親水空間^{しんすい}として利用しやすくなりましたが、一方でダム貯水池周辺へのゴミ投棄が発生しています。ゴミ投棄による景観の悪化は、さらなる投棄につながるため、ゴミ投棄の抑制対策を行う必要があります。

今回のアンケート結果では、滝川ダムの役割について全て知っていた方は約半数にとどまっています。このため、ダム事業の実施にあたっては、住民の方々にダムの役割について正しく知っていただき、事業の必要性について理解してもらえるように努める必要があります。

渇水時には各関係機関や水利権者と適切な調整を行う必要があります。

5 - 2 . 今後の対策

上記の課題に対する今後の対策としては、以下の内容について推進していきたいと考えています。

ゴミ投棄の対策：警告看板の設置。パトロールの強化。ダム周辺の清掃等適切な管理。
地域住民や、地域の子供たちへの啓発活動。

ダム事業に対する理解：ダム見学会。ダムの目的や効果のPR

渇水時の水利用：渇水調整会議の開催